

## 越冬中の生物

### ■越冬中の生物

冬越しの時期で、蒲生干潟は静かなたたずまいである。先月と同じ位置でイシガレイ稚魚の採集を試みたが（レポートNo.183参照）確認できなかった。

10月の調査で、日和山東側の転石下にはカワザンショウガイを観察できなかったが（レポートNo.155 176参照）、今回の調査で生息していることを確認した(Fig.1)。なお、以前の蒲生干潟ではカワザンショウガイ、クリイロカワザンショウガイ、ムシヤドリカワザンショウガイの3種が報告されていたが、今回の調査で確認した個体が3種のどれであるのかについては同定できなかった。同所にはトビムシも越冬していた(Fig.2)。

#### 引用文献

倉田健悟(平成11)七北田川河口域の塩性湿地に生息するカワザンショウガイ科巻貝の生態に関する比較研究



(Fig.1 カワザンショウガイ)



(Fig.2 トビムシ)

### ■泥中にひそむ多毛類

潟湖の泥中にはゴカイの仲間、多毛類が多数生息していた (Fig.3 4)。水底に生息するこのような底生生物はベントスとよばれ、鳥類や魚類の重要な餌となる。今回の調査では、Fig.4のような小型の多毛類が数多く見られ、このような生物が干潟の様々な生物を支えていると考えられる。



(Fig.3 ゴカイの仲間 [多毛類])



(Fig.4 小型の多毛類) (佐藤 賢治)